

ICHIGEKI / 一撃

2005(平成17)年3月20日鑑賞(ホクテンザ1)

★★



監督＝レオン・ポーチ／出演＝スティーヴン・セガール／アイダ・ノヴァクスカ／マット・シュルツ／アグニェシュカ・ヴァグネル／ジャン・プラザルスキ（ギャガ・コミュニケーション配給／2004年アメリカ映画／85分）

……スティーヴン・セガールの『沈黙』シリーズと『電撃』シリーズは、理屈なしに彼のマーシャル・アーツや空手の達人技を楽しめばいい映画だが、そのストーリー展開をスリリングに組み立てるためには、一定のテーマが必要。麻薬汚染・環境破壊・産廃問題・生物兵器等に続く今回の映画のテーマは国際人身売買！ さあ、正義の味方としてのセガールの闘いぶりを心ゆくまで楽しもう……。

ショートコメント

スティーヴン・セガールの最新作『ICHIGEKI / 一撃』のテーマは国際人身売買。平和ボケ(?)日本ではあまり知られていないものの、国際労働機関(ILO)の調査によれば、全世界で1年間に約400万人もの人々が人身売買されているとのこと。そして約3分の1が女性と子供。そして、この映画の舞台となったポーランドの首都ワルシャワを中心とする東欧諸国でのその数は、中南米やアフリカを大きく超えているとのこと。政府機関のエージェントとして働いていたセガール扮するウィリアム・ランシングは、今はカナダの山中で、1人隠遁生活を送っていたが、その唯一の安らぎは孤児院にいる少女イレーナ(アイダ・ノヴァクスカ)との文通だった。そのイレーナが国際的な人身売買組織によって拉致された。こうなればランシングも立ち上がらざるをえない。

こういう状況設定さえ決定すれば、後はマーシャル・アーツ、空手、合気道、剣道、柔道の達人であるセガールの一人舞台(?)を楽しめばいいだけ。今回こ

れを手助けするのは、美人刑事のカシア・ラトー（アグニエシュカ・ヴァグネル）とイレーナの友人のニッキ少年（ジャン・プラザルスキ）。

銃撃戦はいつものとおりだが、今回の決め手は剣による決闘。国際的な人身売買のボス、ファイザル（マット・シュルツ）との決闘シーンがこの映画の見せ場とされているが……？ 予想どおりの展開と予想どおりの結果をほどほどに楽しんでジ・エンド。「時間つぶし」とまでいうと失礼だが、セガールの『沈黙』シリーズや『電撃』シリーズは、まあ、こんなもの……？

2005(平成17)年3月22日記

ミニコラム

坂和流 時間有効活用術

弁護士としての仕事の合間に（？）映画を観て評論を書いて次々と出版していると「よく暇がありますね。ホントに映画館で観てるんですか」と感心されることが多いが、時には疑いの目で見られることも……？ 一般に弁護士は忙しい職業と思われているが、本来の弁護士業務にとられる時間はそれほど多くはない。こう書くとすぐに「お前は何を言ってるんだ」と反論されるが、それは「雑用」を処理するのも、名刺をもって挨拶まわりするのも、さらに依頼者と食事したり、顧問会社の役員とゴルフするのも、すべて仕事だと考えているからだ。どこまでが弁護士の仕事と考えるかは人それぞれ。だからこそ、弁護士は「自由業」と言えるのだが……。

私の時間有効活用術は①私しかできないことだけをやり、それ以外は可能

な限り他のスタッフにやらせて、私はチェックする役割に徹すること、②まとまった時間を求めず、コマ切れの時間をうまく活用すること、が基本。要は、集中力と要領の問題だが、これは一朝一夕にできるものではない。ちなみに、映画鑑賞についての時間有効活用の秘訣をひとつ。それは、映画は一人で観ることに徹すること。つまり、デートを兼ねて「誰かと一緒に」という中途半端な甘えの気持ちを捨てることだ。誰かと一緒に考えると、待ち合わせ時間は？ 終わった後のお茶は？ 食事は？ となるのがオチ。そうなると、これはホントに映画を観たいのか、それとも誰かとの心のふれあいを求めているのか、という問題。あなたの目的をはっきりさせなければ、時間の有効活用なんて、とてもとても……？

2005(平成17)年7月12日記